

「加入者 1 人当たり医療費の分析を通じた医療費適正化具体策の検討」

神奈川支部 企画総務グループ 主任 中野 達貴

概要

【目的】

神奈川支部の都道府県単位保険料率は、協会設立以来 10%未滿で推移してきたが、加入者 1 人当たり医療費の伸びが相対的に高いことから、2023 年度の都道府県単位保険料率は 10%超となる可能性が高い。

この調査研究は、その要因を究明することにより、加入者 1 人当たり医療費の適正化のための課題を明らかにし、具体策を検討することを目的とする。

【方法】

加入者 1 人当たり医療費を男女別、入院・入院外別に分析し、全国平均からの乖離が経年で大きく変化しているものおよび全国平均を常に大きく上回っているものについて、疾病分類別に分析する。

【結果】

全国平均からの乖離が経年で大きく変化していたのは男性の入院医療費、全国平均を常に大きく上回っていたのは女性の入院外医療費であった。

影響が大きかった疾病分類は、次のとおり（女性は 2019 年度の数値）。

- ① 男性の「新生物」の入院医療費（2年間で 1,428 円/人の悪化）
- ② 男性の「循環器系疾患」の入院医療費（2年間で 612 円/人の悪化）
- ③ 女性の「呼吸器系疾患」の入院外医療費（全国比+1,446 円/人）
- ④ 女性の「精神及び行動の障害」の入院外医療費（全国比+548 円/人）
- ⑤ 女性の「腎尿路生殖器系疾患」の入院外医療費（全国比+576 円/人）

【考察】

神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費は、男性の入院医療費の伸びが相対的に高いことや女性の入院外医療費が高止まりしていることを主因として、伸び率が全国平均を上回っている。

この医療費分析を掘り下げることにより、男性の入院医療費の伸び率が高い要因となっている「新生物」については、生活習慣病予防健診の受診勧奨の強化、女性の入院外医療費が高止まりしている要因となっている「呼吸器系疾患」については、禁煙の推進や OTC 医薬品（花粉症）の使用促進など、焦点を絞った（ピンポイントの）医療費適正化策を検討・実施し、加入者 1 人当たり医療費の伸びを抑制していきたい。

【目的】

神奈川支部の都道府県単位保険料率は、協会設立以来 10%未滿で推移してきたが、神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費は<表 1>のとおり、首都圏 4 支部（埼玉支部、千葉支部、東京支部、神奈川支部）の中では最も高いこと、およびその伸びが相対的に高いことから、2023 年度の都道府県単位保険料率は首都圏 4 支部の中では神奈川支部だけが 10%超となる可能性が高い。

<表 1：加入者 1 人当たり医療費（年齢調整前）の推移>

	㉑ 2017 年度	㉒ 2018 年度	㉓ 2019 年度	㉔/㉑	㉕/㉒
全国平均	178,344	181,075	185,532	1.0153	1.0246
埼玉	170,662	173,421	177,219	1.0162	1.0219
千葉	174,126	176,894	181,356	1.0159	1.0252
東京	173,247	176,546	177,350	1.0190	1.0046
神奈川	176,927	180,118	185,918	1.0180	1.0322

〔出所〕医療費基本情報、加入者基本情報

この調査研究は、首都圏 4 支部の中で神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費が高い要因およびその伸びが高い要因を究明することにより、神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費の適正化のための課題を明らかにするとともに、医療費適正化に向けた具体策を検討することを目的とする。

【方法】

協会けんぽのホームページで公開している「医療費基本情報」および「加入者基本情報」を基に、全国平均および首都圏 4 支部の加入者 1 人当たり医療費を男女別、入院・入院外別、疾病分類（大分類、必要に応じて疾病分類コード）別に分析し、神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費について、全国平均（および首都圏他支部）から大きく乖離している疾病および全国平均からの乖離が経年で大きく変化している疾病を神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費が高い要因またはその伸びが相対的に高い要因として追究する。

具体的には、次の順に分析を進める。

- ①「入院入院外別・男女別の加入者 1 人当たり医療費」の推移を全国平均および首都圏他支部と比較。
- ②上記①の内、全国平均を常に上回っている項目について、医療費の 3 要素（受診率、1 件当たり日数、1 日当たり医療費）に分解して比較。
- ③上記①の内、全国平均からの乖離が変化している項目と②について、疾病分類（大分類、必要に応じて疾病分類コード）別に分解して比較。

あわせて、それらの要因となっている疾病にかかる医療費を適正化するために保険者として取り組むべき課題を、神奈川支部所属の保健師などの知見を得ながら検討する。

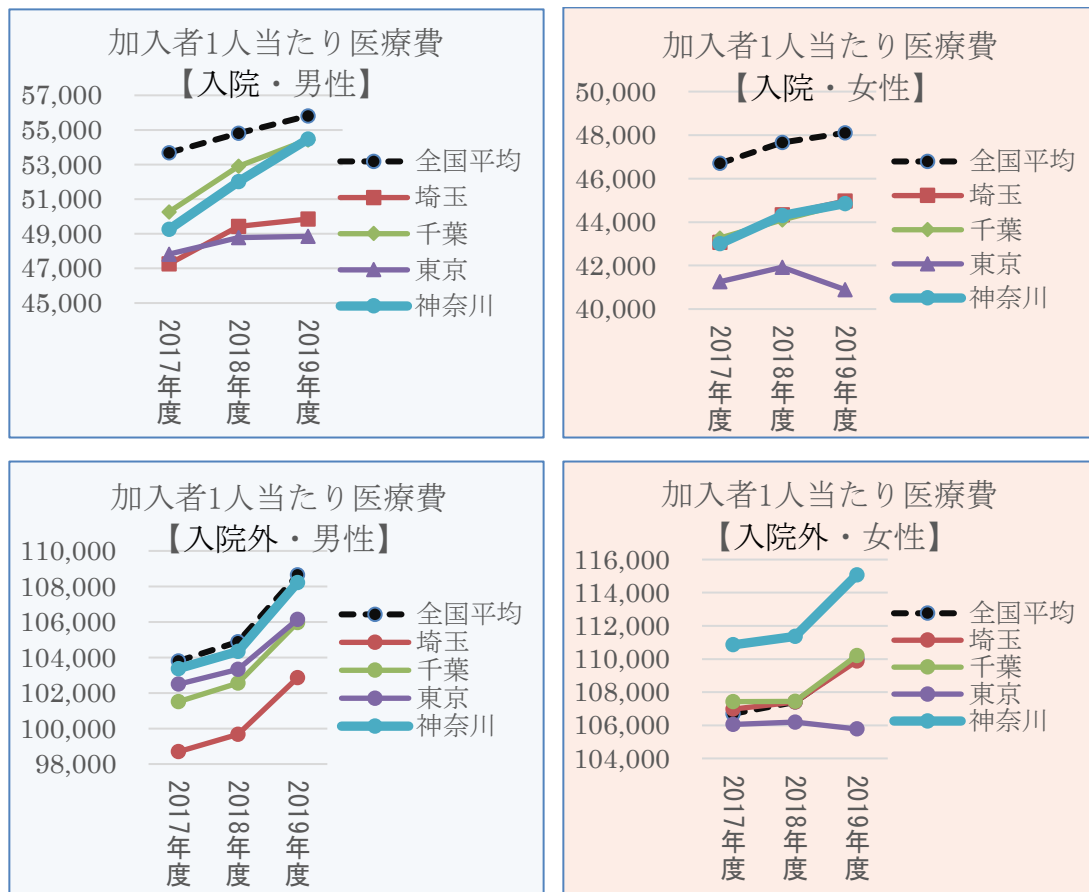
なお、分析には、コロナ禍の影響を受けていない（またはほとんど受けていない）2017年度～2019年度のデータ（年齢調整前）を用いることとする。

【結果】

①（入院・入院外別、男女別の加入者1人当たり医療費）

加入者1人当たり医療費を、入院・入院外（調剤含む）別・男女別に分解すると<図1>のとおりである。

<図1：入院・入院外（調剤含む）別・男女別の加入者1人当たり医療費>
(単位：円/人)



〔出所〕 医療費基本情報、加入者基本情報

【入院・男性】は全国平均を下回っているが乖離は縮小しており、【入院・女性】は全国平均を下回っており、【入院外・男性】は全国平均並みであった。【入院外・女性】は全国平均を常に上回っていた。

②（女性の加入者 1 人当たり入院外医療費の 3 要素分解）

全国平均を常に上回っている【入院外・女性】の加入者 1 人当たり医療費について、「3 要素分解」による分析を行った結果を<表 2>に記す。

3 要素の中では受診率が高かった。

<表 2：女性の加入者 1 人当たり入院外医療費（2019 年度）の 3 要素分解>

	入院外医療費 (円/人)	受診率 (件/人)	1 件当たり日 数 (日/件)	1 日当たり医 療費 (円/日)
全 国 平 均	110,001	6.87	1.41	11,332
埼 玉	109,875	6.69	1.42	11,590
千 葉	110,209	6.54	1.41	11,964
東 京	105,775	6.74	1.39	11,284
神 奈 川	* 115,077	* 6.99	1.41	11,689

〔出所〕医療費基本情報、加入者基本情報

神奈川支部の女性の入院外の受診率（2019 年度）は、「10～19 歳」を除いたすべての年齢階級で、全国平均および首都圏他支部を上回っている<表 3>。

<表 3：女性の入院外医療費の受診率（2019 年度）> (件/人)

	0-9 歳	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
全 国 平 均	8.57	4.51	4.88	5.83	6.06	7.74	9.97	12.94
埼 玉	8.48	4.49	4.76	5.64	5.86	7.45	9.62	12.44
千 葉	7.88	4.22	4.54	5.37	5.79	7.40	9.51	11.93
東 京	8.92	4.67	4.83	5.83	6.14	7.68	9.88	12.49
神 奈 川	8.58	4.37	4.97	5.92	6.23	7.87	10.09	12.99

〔出所〕医療費基本情報、加入者基本情報

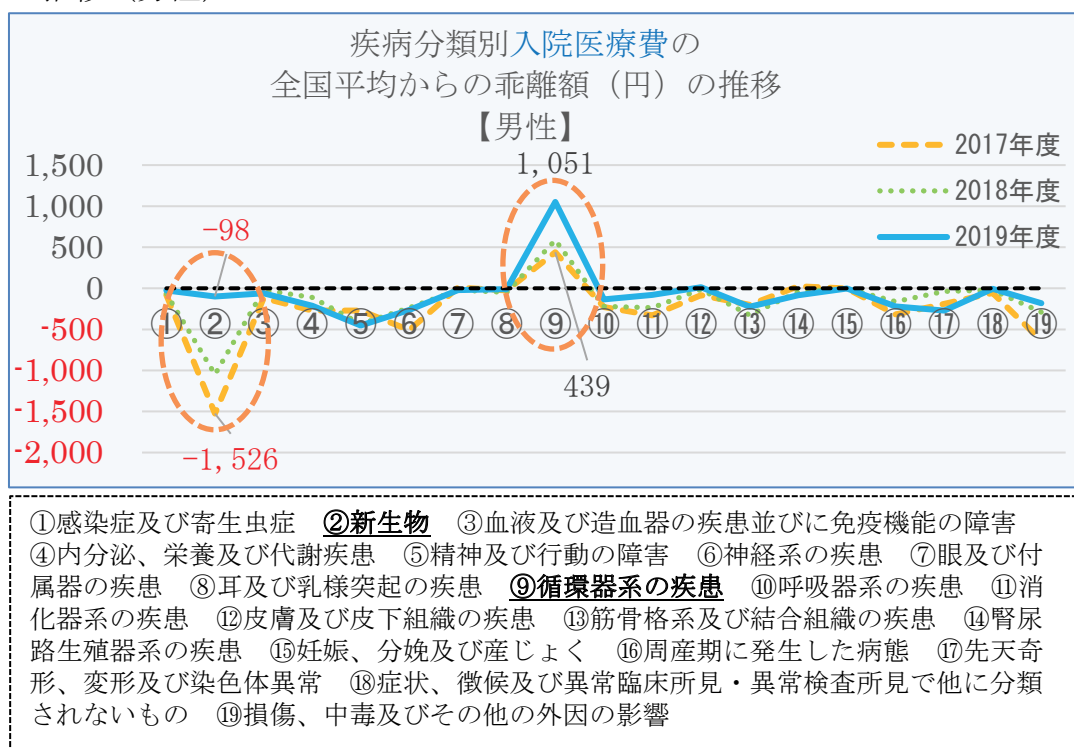
③（男性の疾病分類別の加入者 1 人当たり入院医療費）

全国平均からの乖離が縮小している【入院・男性】の加入者 1 人当たり医療費について、疾病分類別の入院医療費の全国平均からの乖離額の推移を分析したものが、<図 2>のグラフである。

2 年間で大きく変化したのは、次の 2 点であることが分かる。

- ・「新生物」の入院医療費の全国平均からの乖離が 2 年間で▲1,526 円/人から▲98 円/人に縮小（2 年間で 1,428 円/人の悪化）。
- ・「循環器系疾患」の入院医療費の全国平均からの乖離が 2 年間で+439 円/人から+1,051 円/人に拡大（2 年間で 612 円/人の悪化）。

<図 2：疾病分類別加入者 1 人当たり入院医療費の全国平均からの乖離額の推移（男性）>



〔出所〕 医療費基本情報、加入者基本情報

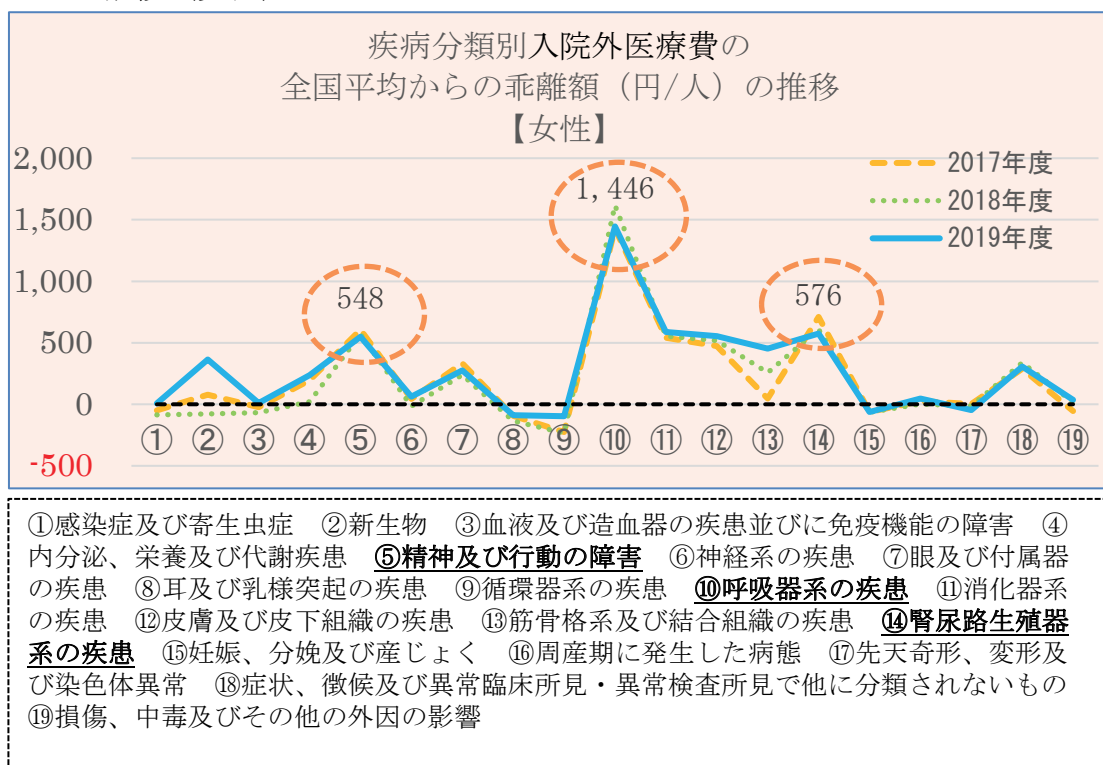
④（女性の疾病分類別の加入者 1 人当たり入院外医療費）

全国平均を常に上回っている【入院外・女性】の加入者 1 人当たり医療費について、疾病分類別の入院外医療費の全国平均からの乖離額の推移を分析したものが、<図 3>のグラフである。

全国平均からの乖離が大きいのは、次の 3 点であることが分かる。

- ・「精神及び行動の障害」の入院外医療費の全国平均からの乖離が高止まり（2019 年度で全国比+548 円/人）。
- ・「呼吸器系疾患」の入院外医療費の全国平均からの乖離が高止まり（2019 年度で全国比+1,446 円/人）。
- ・「腎尿路生殖器系の疾患」の入院外医療費の全国平均からの乖離が高止まり（2019 年度で全国比+576 円/人）。

<図3：疾病分類別加入者1人当たり入院外医療費の全国平均からの乖離額の推移（女性）>



〔出所〕 医療費基本情報、加入者基本情報

⑤（女性の疾病分類別の加入者1人当たり入院外医療費のブレイクダウン）

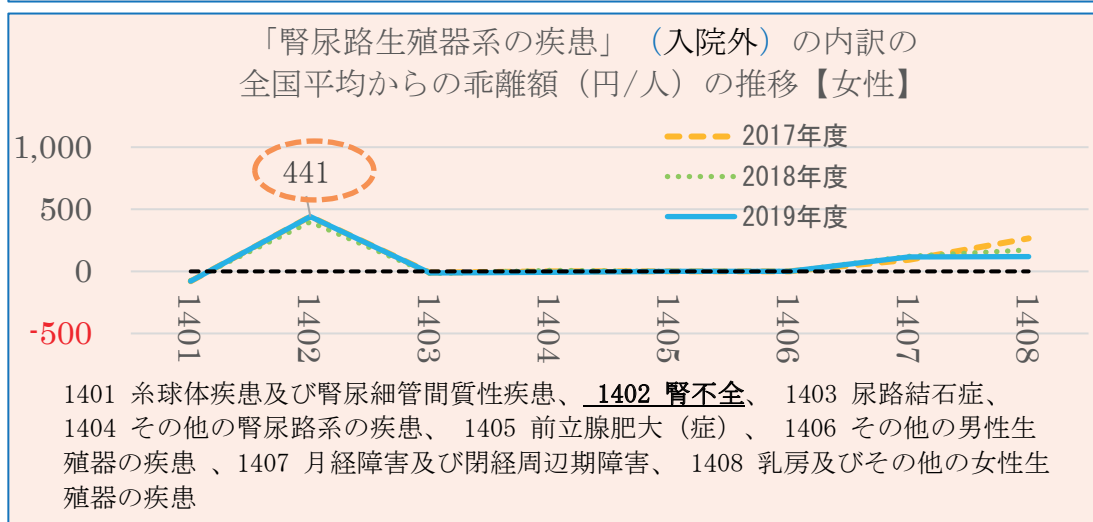
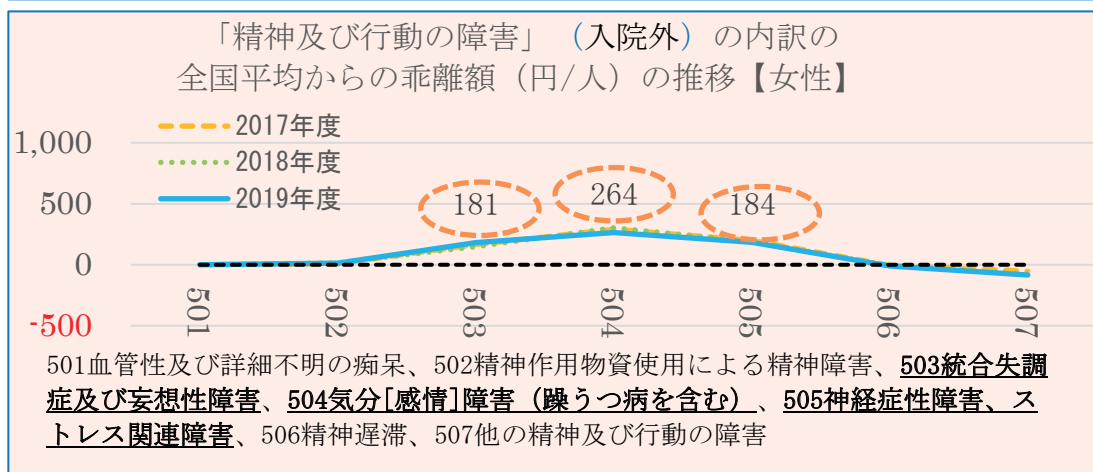
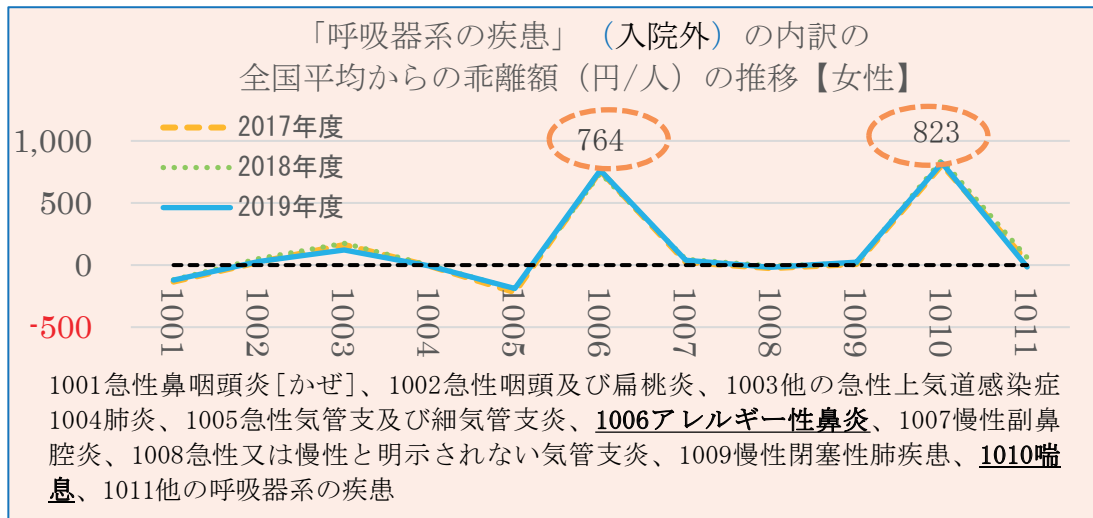
神奈川支部の女性の入院外医療費が相対的に高い要因として挙げた前述の3つの疾病について、さらに疾病分類コード別にブレイクダウンしたものが、<図4>の各グラフである。

「呼吸器系疾患」（全国比+1,446円/人）の内訳は、「アレルギー性鼻炎」が+764円/人、「喘息」が+823円/人などとなっている。

「精神及び行動の障害」（全国比+548円/人）の内訳は、「気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）」が+264円/人、「神経症性障害、ストレス関連障害」が+184円/人、「統合失調症及び妄想性障害」が+181円/人などとなっている。

「腎尿路生殖器系の疾患」（全国比+576円/人）の内訳は、「腎不全」+441円/人などとなっている。

<図 4：疾病分類別加入者 1 人当たり入院外医療費の全国平均からの乖離額の推移（女性）のブレイクダウン>



〔出所〕 医療費基本情報、加入者基本情報

【考察】

以上の分析を通じて、加入者1人当たり医療費について神奈川支部は首都圏4支部（埼玉支部、千葉支部、東京支部、神奈川支部）の中で最も高くかつその伸びが相対的に高い問題点として、次の2つが挙げられる。

- ①男性の加入者1人当たり入院医療費の伸びが相対的に高いこと
（全国平均からの乖離が2年間で▲4,430円/人から▲1,346円/人に縮小）。
- ②女性の加入者1人当たりの入院外医療費が相対的に高いこと
（2019年度の全国平均からの乖離は+5,076円/人）。

上記①の主な要因としては、次の2点が挙げられる。

- ・男性の「新生物」入院医療費の全国平均からの乖離の縮小
（2年間で▲1,526円/人から▲98円/人に縮小）。
- ・男性の「循環器系疾患」入院医療費の全国平均からの乖離の拡大
（2年間で+439円/人から+1,051円/人に拡大）。

上記②の主な要因としては、次の5点が挙げられる。

- ・女性のほぼ全ての年代における「受診率」の相対的な高さ。
- ・女性の「アレルギー性鼻炎」入院外医療費の相対的な高さ（+764円/人）。
- ・女性の「喘息」入院外医療費の相対的な高さ（+823円/人）。
- ・女性の「精神及び行動の障害」入院外医療費の相対的な高さ（+548円/人）。
- ・女性の「腎不全」入院外医療費の相対的な高さ（+441円/人）。

それぞれの要因について、<表4>に掲げたような、焦点を絞った（ピンポイントの）医療費適正化策を神奈川支部所属の保健師等の知見を得ながら策定した。これらの施策を講じることを通じて、神奈川支部加入者1人当たり医療費の伸びの抑制、ひいては神奈川支部の都道府県単位保険料率の引き下げにつなげていきたい。

<表 4：本分析を通じて判明した神奈川支部の加入者 1 人当たり医療費の問題点と医療費適正化に向けた具体策>

神奈川支部の医療費の問題点	医療費適正化に向けた具体策
【男性・入院】「新生物」の医療費の伸びが相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに関係する生活習慣の予防啓発 ・がんの早期発見のための生活習慣病予防健診の推進強化
【男性・入院】「循環器系の疾患」の医療費が相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・「循環器系疾患の一人当たり医療費の伸び率抑制」を上位目標とする「神奈川支部データヘルス計画」の推進強化
【女性・入院外】受診率が相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診、特定保健指導の推進強化
【女性・入院外】「アレルギー性鼻炎」の医療費が相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフメディケーションの推進 (OTC のメリットについての広報強化) ・リフィル処方箋の推進
【女性・入院外】「喘息」の医療費が相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者の割合が高い (2017 年度は全国 5 位) 女性被保険者の禁煙推進強化
【女性・入院外】「精神及び行動の障害」の医療費が相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・健康企業宣言参加事業所を対象とした「メンタル対策講座」(無料) の利用促進
【女性・入院外】「腎不全」の医療費が相対的に高い	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病や高血圧の未治療者への医療機関の受診勧奨 ・糖尿病性腎症患者への重症化予防プログラムの推進強化

